

令和5年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立川口特別支援学校)

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とともに、児童生徒の力を伸ばす学校 ・人生をより豊かに生きる力を育む学校 ・保護者や地域から信頼される、安心安全な学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の発達と障害特性、生活年齢及び将来像を見据えた授業づくりとキャリア教育を進め、教育課程の充実を図る。 2 家庭・地域・専門家・福祉関係者との連携を密にして日々の指導・校内支援の充実を図るとともに、センター的機能を充実させながら、校外支援を進める。 3 緊急時・災害時に備えるとともに、感染症予防対策を十分に行い、安心安全な学校づくりを進める。 4 「一人一人を大切に作る学校づくり宣言」に基づき、人として生きる権利、幸福を追求する権利を大切に、一人一人の人権を尊重した教育活動を進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

*学校関係者 評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

学校関係者	11名
生徒	5名
事務局 (教職員)	8名

学校の自己評価					学校関係者評価		
年度目標					実施日 令和6年2月5日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度評価 (令和5年12月21日現在)	達成度	
1	<p>授業担当者や学部ブロック、学年等の話し合いと共通理解を丁寧に進めるとともに、学部ブロック研修、年次研修担当者等による研究授業と研究協議を実施し、発達・障害特性・生活年齢を踏まえ将来像を見据えた授業づくりを進めている。ライフキャリアについての意識が高まり、日々の授業に活かされつつある。学部ブロック目標、「時期の特徴」及び「キャリア発達段階表」、小中学部校としての「進路指導計画」などを踏まえ、ライフキャリアについての共通理解を深めながら、その視点から小・中学部の一貫性を大切に、授業改善を行う。</p> <p>学習指導要領に基づく授業づくりについての全校研修を実施し、日々の授業に活かしている。学部ブロックで教育課程反省、実践報告会、話し合い等を進め、見直した教育課程に基づく実践と検証を行った。研修・教育課程部、教育課程検討委員会を中心に、学習指導要領に基づく「資質・能力の三つの柱」とライフキャリアの視点から学部ブロック目標と「時期の特徴」の整理を行うとともに、日課表を検討し、改善した。ライフキャリアの視点から現在進めている教育実践と教育課程を整理し、小・中学部校としての一貫性や学習指導要領との関係性を深めていく。</p>	児童生徒一人一人の発達・障害特性・生活年齢と将来像を見据えた授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校におけるカリキュラムマネジメント」を踏まえ、日常的な教職員の話し合いと共通理解を大切に、授業づくりを進める。年間を通して計画的に全校研修・学部ブロック研修を実施する。年次研修を中心とした授業研究を行う。 ・学部ブロックでの話し合いと小・中学部9年間を見通した学部間の「縦割り」校内研修を行い、児童生徒の将来像とライフキャリアについての共通理解を深め、日々の授業づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な教職員の話し合いと授業研究等を行い、一人一人の発達・障害特性・生活年齢を踏まえた授業づくりと指導・支援が行われたか。 ・児童生徒の将来像とライフキャリアについての共通理解を深め、ライフキャリアの視点から日々の授業が行われたか。 	<p>評価項目の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部ブロックの教職員の話し合い、共通理解を大切にするとともに、年次研修担当者による研究授業と研究協議を計23回実施し、日々の授業を充実させた。 ・ライフキャリアの視点から児童生徒の将来像を見据え、本校としての「育みたい力」を「縦割り」校内研修で協議し、共通理解を図った。「縦割り」研修で動画視聴による授業研究と研究協議を行い、小低、小高、中学部の縦の繋がりを意識した授業づくりと授業改善を行った。それらの内容を「研修まとめの会」で報告し、共有した。 	A	<p>次年度への課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の日々の話し合いを大切にするとともにカリキュラムマネジメントを機能させ、ライフキャリアの視点から、9年間の縦の繋がりを意識した指導・支援と日々の授業づくりを行う。
		<p>学習指導要領に基づく授業づくりについての全校研修を実施し、日々の授業に活かしている。学部ブロックで教育課程反省、実践報告会、話し合い等を進め、見直した教育課程に基づく実践と検証を行った。研修・教育課程部、教育課程検討委員会を中心に、学習指導要領に基づく「資質・能力の三つの柱」とライフキャリアの視点から学部ブロック目標と「時期の特徴」の整理を行うとともに、日課表を検討し、改善した。ライフキャリアの視点から現在進めている教育実践と教育課程を整理し、小・中学部校としての一貫性や学習指導要領との関係性を深めていく。</p>	学習指導要領とライフキャリアの視点から小・中学部校としての教育課程づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研修テーマに基づき、全校研修、学部会、学部研修、学部間の「縦割り」校内研修等を通し、学習指導要領及び「学校教育目標」「学部目標」「時期の特徴」「キャリア発達段階表」「進路指導計画」等を踏まえ、ライフキャリアの視点から系統性を大切にした教育課程づくりを進める。 ・「研修まとめの会」(2月実施)において、2年間の研修の成果と改善した教育課程について共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂した教育課程に基づき、教育実践と全校研修を進め、検証を行うとともに改善することができたか。 ・学習指導要領及び「学校教育目標」「学部目標」「時期の特徴」「キャリア発達段階表」「進路指導計画」を踏まえ、これまでの教育実践を整理し、小・中学部校としての系統性がある教育課程づくりが行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づく授業づくりについての全校研修を実施し、学習指導要領についての理解を深め、日々の授業実践に活かした。 ・「縦割り」校内研修及び、各学部ブロックで実施する教育課程反省を踏まえ、小・中学部の系統性を意識した教育課程の確認・見直しを行った。教育課程検討委員会において日課表等の検討・調整を行い、職員会議で共通理解を図った。 	A
2	<p>学級担任を中心に保護者との共通理解を丁寧に進めるとともに、日々の指導の充実をさせている。支援が必要なケースについて、年間を通して校内委員会を実施するとともに、外部関係機関を含めた支援会議を行い、組織的な検討と支援を進めた。保護者との共通理解を大切にするとともに、必要な情報発信を進める。本校教育の充実のために、学校評議員会・学校づくり懇話会、後援会等の成果を踏まえ、学校運営協議会をスタートさせる。</p> <p>特別支援教育コーディネーターを中心に教育相談、研修支援等を実施している。関係諸機関との連携を深め、川口市、蕨市の特別支援教育を充実させる。</p>	保護者、関係諸機関と連携し、指導及び校内支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の情報共有を大切に、保護者との共通理解を進める。 ・外部講師と連携し、児童生徒理解を深め、指導を行う。校内委員会を実施する。関係諸機関と連携し、支援会議を行う。校内支援、家庭支援を行い、指導・支援を充実させる。 ・学校運営協議会についての教職員間の共通理解を深め、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との共通理解を深め、児童生徒の指導・支援が行われたか。 ・特別な支援が必要な児童生徒、家庭について共通理解を深め、支援が行われたか。 ・外部講師、関係諸機関と連携し、児童生徒理解を深めることができたか。 ・学校運営協議会が円滑に実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会を4回、要支援ケースについての共通理解と対応の検討を行い、関係機関を含めた支援会議を17回開催した。5名の外部専門家による巡回相談(のべ133件)を実施し、指導・支援に活かした。(12月末まで) ・これまでの学校評議員会・学校づくり懇話会を踏まえ、今年度から学校運営協議会をスタートさせ、3回(2回目は分校開催)実施した。中学部代表委員会生徒による活動報告及び、意見交換を行った。その内容を職員会議で全校へ周知した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携をしながら校内支援体制を確立し組織的に対応する。 ・卒業後を見通して、地域とのネットワークづくりに取り組んでほしい。 ・親同士のつながりは大切。学校との共通理解を大切に、子どもを中心にPTA活動を活発に進めてほしい。 ・学習内容がもう少し分かるよう丁寧な説明や発信の工夫をしてほしい。 ・積極的な地域支援を進めている。行政を巻き込み、就学前からの長いスパンで子どもたちを捉えてほしい。
		<p>感染症対策、緊急時対応研修、ヒヤリハット報告、特別な配慮を要する児童生徒の情報交換会、アレルギー対策、スクールバス安全管理マニュアルの作成とその内容の徹底等を行った。アレルギー、てんかん発作等、特別な配慮を要する児童生徒の緊急時対応について、具体的な場面を想定した教職員研修を実施した。引き続き組織的な対応を行い、事故防止と感染症対策を徹底し、学校行事、泊を伴う行事、校外プール指導等の教育活動を円滑に進める。</p> <p>災害対策委員会を定期的に実施し、PTA、自治会と連携し、備蓄品の整備と児童生徒用避難袋の学校保管を行った。昨年度に続き、教職員による実践的な引き渡し訓練を行う。</p>	<p>感染症対策と事故防止を徹底し、安心安全な学校づくりを進める。</p> <p>緊急時・災害時対策を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会、アレルギー対策委員会等を中心に組織的に対応し、リスクマネジメントと危機管理の対応を徹底する。 ・危険事例等の情報を教職員間で共有するとともに、発生した事故については丁寧に分析し、再発を防止する。 ・感染症予防対策については、県の指示、感染状況を踏まえ、教育環境の整備に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険事例や事故について全教職員で共有するとともに、安心安全のための教育環境整備が行えたか。 ・児童生徒の重大事故を起こさないことを徹底し、0(ゼロ)にできたか。 ・アレルギー対策の徹底及び感染状況を踏まえた感染症対応に取り組むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険事例や事故については、全教職員に報告や周知を行い、事故の再発防止を徹底し、安心安全な教育環境整備に取り組んだ。 ・アレルギーや発作等の緊急時における職員研修を年2回実施し、実際の場面を想定した実践的な研修を行った。アレルギー対策委員会を随時開催し、食物アレルギー対策における今後の対応について全体で周知・確認を行い、危機管理意識を高めた。 ・体育文化部及び各学部ブロックのプール担当を中心に安全対策を行い、校外プールを実施した。 	B
4	<p>職員会議で「一人一人を大切に作る学校づくり宣言」の内容を全職員で確認するとともに年間を通して職員会議後に不祥事防止研修を実施した。全校研修会及び「チェックリスト」に基づく学部ブロック研修を行い、その内容を全教職員で共有した。不適切な指導根絶のため、教職員の人権意識や障害理解を深め、人権尊重と合理的配慮を基本に、教職員の共通理解とチームワーク、保護者との信頼関係を大切に教育活動を進める。</p>	人権尊重に関する教職員の意識を高め、日々の教育活動に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人一人を大切に作る学校づくり宣言」の内容を職員会議で共通理解を図るとともに、人権や合理的配慮に即した指導のあり方について全校研修を行う。 ・日々の教育実践を振り返るとともに、教職員間の連携を深め、児童生徒や保護者との信頼関係、共通理解を大切に指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して、教職員一人一人が人権や合理的配慮、障害特性等について理解を深め、体罰・虐待、不適切な指導を0(ゼロ)にできたか。 ・教職員間の丁寧な話し合いと共通理解により教職員間のチームワーク力を高められたか。 ・人権尊重の意識を高め、適切な教育活動を行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議及び不祥事防止研修において「宣言」の内容を全職員で確認した。「障害のある子どもたちの未来につながる教育」という演題で、企画委員会主催の全校人権研修を実施した。「チェックリスト」に基づく学部ブロック研修を行い、不適切な指導根絶のための話し合いを踏まえ、人権を尊重した指導を徹底した。 ・保護者との共通理解と教職員のチームワークによる指導体制を充実させた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や日々の振り返りを大切に、教職員全体としての人権意識を高め、保護者との信頼関係構築とチームワークに基づく指導体制の徹底を図る。